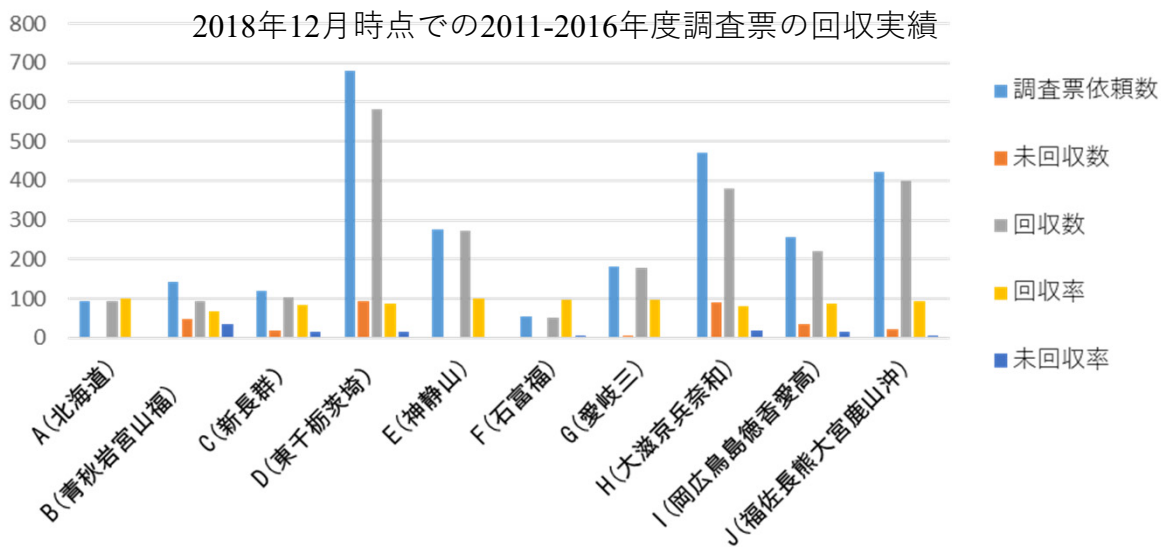


わが国のサーベイランスの課題とその対策

研究分担者: 国立精神・神経医療研究センター病院 脳神経内科 塚本 忠



回収率のブロックによる違い

- 回収率の非常に高いブロックが数カ所ある。近畿ブロックの回収率は著明に改善した。
- 再依頼により調査表の回収率は明らかに上昇する。
- ブロック別だけでなく県別でも未回収率の高低に差がある。

剖検率のさらなる低下

- ヒト乾燥硬膜移植後CJDの減少とともに剖検率が近年低下している。
- 主治医および家族向けパンフレットのさらなる活用(意義と安全性を説明)
- 剖検可能な施設を拡大もしくはセンター化
- 感染予防ガイドラインの改訂・普及
- 関係学会からの協力
- サーベイランスと自然歴調査の一体化により、剖検率上昇も期待される。

解説

1. ブロック別に差はあるものの、サーベイランス調査票の回収はまだまだ悉皆的には遠い状態である。主治医への働きかけを何度も行う必要がある。
2. サーベイランス調査と自然歴調査の連携が、問題を改善させる可能性がある。